

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム誉ヶ丘
(ユニット名)	A棟
所在地 (県・市町村名)	宇城市豊野町山崎1728-1
記入者名 (管理者)	長 聡子
記入日	平成19年6月10日

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定の項目に、地域との関わり合いを掲げており、地域密着型サービスと位置付けられたのを機会に、事業所独自の理念を掲げている。	<input type="checkbox"/> 理念は生き物であるため、理念に基づいた具体的な項目を掲げ、利用者や地域の様々な変化に対応できる事業所の体制作りを確立したい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念を書き込んだ名札を着用しており、いつでも確認できる体制作りが出来ている。事務室内にもホーム理念と介護理念を掲示しており、日常的な意識付けと実践に向けて、日々取り組んでいる。	現状を維持し、必要により改善していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは、入居時に重要事項説明と併せて、運営規定やホーム理念及び介護理念の説明を行なっている。運営推進会議のメンバーには既に説明を行なっているが、地域の方への浸透はまだ不十分である。	<input type="checkbox"/> 運営推進会議のメンバーを介して、老人会や民生委員の方への啓発を行なっていきたい。現在、GHのホームページを作成中であり、PRの効果を期待している。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの誉ヶ丘公園やアグリパークへ行った際は、隣近所の人と気軽に挨拶をしたり、声をかけてもらっている。また、近隣の方が、野菜や花を持って来られたり、お茶を飲みに来られることもあり、日頃から気軽に立ち寄れる雰囲気作りにも努めている。	<input type="checkbox"/> 誉ヶ丘公園やアグリパークの立地を活かし、声かけによる交流を今以上に拡大していきたい。職員が積極的に地域に溶け込むことが必要である。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に根ざしたホームを目指しており、地域とのつきあいは重要な項目であり、商工会や婦人部との交流は出来ているが、積極的な交流には至っていない。	<input type="checkbox"/> 商工会や婦人部、小学生の訪問等は合っているが、ホーム側からのアプローチが弱いため、行事や地域活動への参加から始めたい。6月には、利用者と職員が、地域の環境美化活動に参加出来ている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>職員が培ってきた福祉に関する経験や知識を、地域の高齢者等と話し合う機会を得ることで、少しでも暮らしに役立てたいとの思いは強いが、実行に至っていない。</p>	○	<p>老人会や地域住民の集まり等で、福祉に関する話しや転倒防止等の話しができれば良いと考えている。老人会長や民生委員を通して、呼びかけていく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>学習会等にて、自己評価及び外部評価の意義を説明し、理解を得ている。また、評価を分析し、出来る項目から全体で取り組んでおり、改善できた項目は業務に、有意義に活かされている。</p>		<p>現状を維持し、必要により改善していく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービスの実施状況や外部評価への取り組み状況及び入所状況や行事報告等を行ないながら、メンバーからの意見や要望及び評価を頂き、サービス向上に活かしている。また、経過報告も行なっている。</p>	○	<p>運営推進会議のメンバーから、意見や要望が、まだ出にくい状況であり、テーマに沿った意見集約に努めていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の連絡協議会や研修等での交流の機会があり、地元の在宅介護支援センターや居宅介護支援事業者との情報交換も出来ているが、行政と一体となったサービスの質の向上につながるような働きかけが弱い。</p>	○	<p>ホーム側から積極的に訪問し、介護保険や入所相談等の情報交換が気軽に出るような、関わり合いを作っていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、学習の機会を得ており、制度の理解は出来ているが、職員は、入居者に対象者がいないため、制度について学習する機会がまだ得られていない。</p>	○	<p>利用者がいつでも制度の活用ができるように、制度について学習の機会を設けることから始めたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法については、学習の機会はないが、職員は重要性と必要性は理解できており、管理者は自宅や事業所内で虐待がないように注意を払い、虐待防止に努めている。現在まで、報告及び事例はない。</p>		<p>現状を維持し、必要により改善していく。</p>

誉ヶ丘(A棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて、十分な説明を行ない理解を得ている。契約時には、再度説明を行ない、契約の締結と解約の場合の疑問に応え、不安解消を図っている。現在まで、トラブルは起きていない。	現状を維持し、必要により改善していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別に時間は設けていないが、日常のケアの中で利用者の意見や訴えを聞く機会を得ており、カルテに記入し、職員が代弁して申し送りやカンファレンスで対応策を検討し、運営に反映させている。	○ 意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行なっていきたい。意思疎通が困難な利用者からの意見集約に重点的に取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	近況報告書を毎月家族へ送付し、利用者の暮らし振りや健康状態、職員の移動等について、個々に合せた報告をしている。金銭管理については、毎月、出納帳の確認と領収書の配布を行なっている。	現状を維持し、必要により改善していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「御意見箱」を玄関に設置しており、面会時や見学時に、意見、不満、苦情、要望を受け付けている。また、口頭や運営推進会議の場でも気軽に意見の受け入れを行っており、寄せられた苦情等に対しては、担当者が速やかに対応策を検討し、運営に反映している。	○ 意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行なっていきたい。面会や会議の場でも呼びかけていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、学習会や主任者会議にて、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、その場で対応策を検討し、運営に反映させている。また、意見が出にくい職員もいるが、年度末に個人面談を実施することで対応している。	○ 意見や不満、苦情等を気軽に言えるような人間関係や雰囲気作り及び迅速な対応を行なっていくが、意見を聞く機会を運営者や管理者が定期的に設けて行く。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	看護師、介護福祉士、栄養士、ヘルパー等の人材を確保しており、利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できる体制作りが出来ている。そのために、運営者と管理者は常に話し合いや勤務の調整に努めている。	現状を維持し、必要により改善していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット体制になってからの職員の移動は行っていない。離職者は1名であり、利用者へのダメージは防止できている。	現状を維持し、必要により改善していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修としては、実践者研修等の中込みをしているが、参加の機会に恵まれていない。GH協議会の勉強会は年間計画として参加できている。職場内教育として、毎月、テーマを決め、段階に応じた教育の実施が出来ている。OJTとして、日常のケアや申し送りの場面での確かな助言や指導を看護師や介護福祉士が実践している	○ 職場内の学習機会は充実してきているが、外部研修の機会が少なく、職員のレベルアップのためには、計画的な研修やOJTが必要である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、GH連絡協議会のメンバーとして、管理者や職員が勉強会や相互交流の活動に参加出来るように支援しているが、サービスの質の向上には至っていない。	○ 交流の機会も少なく、限られた職員の参加が主なため、全員が活動に参加できるような、年間計画が必要である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員の希望を取り入れた、負担のない勤務に努めているが、ゆっくりと休める、休憩室の整備が遅れている。	○ 職員のストレスを吸い上げる機会を作ることが必要であり、気軽に話し合え、気軽に意見が言える人間関係を保つことに、日々努めている。休憩室については、今年度中に整備する計画である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、個々の努力や実績を活かした、役割や担当制を実施することで、各自の向上心を持って働けるように努めている。また、個人目標を掲示し、目標を持って意欲的に働けるように支援している。	現状を維持し、必要により改善していく。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までは、担当者が数回面談したり、自宅訪問することで落ち着いた状態で、本人の困っていることや不安なこと、求めていること等を本人自身から良く聴き、受け止める努力をしている。	現状を維持し、必要により改善していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までは、担当者が数回面談したり、自宅訪問することで落ち着いた状態で、家族等が困っていることや不安なこと、求めていること等を家族等から良く聴き、受け止める努力をしている。	現状を維持し、必要により改善していく。

誉ヶ丘(A棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には、担当の介護支援専門員に同行してもらい、一緒に検討している。種々のサービスの説明をする中で、本人の状態に合ったサービス提供と、本人・家族の要望が一致するように努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に数回、最低でも2回はホームを見学してもらい、本人の意見や見学の様子を考慮した上で、サービスの開始をしている。1日体験をされた利用者もおられる。	○	家族主体での決め事が多いので、本人の印象や相性等を最優先に考慮しながら、納得した上でサービスの利用開始を行なっていく
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にすることで、助言や温かい励ましの言葉を頂くことがあり親子関係に似た、支え合う関係である。また、料理、編物、歌、踊り等を通じて本人から学ぶことも多く、師としての関係である。		現状を維持し、必要により改善していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が、本人のありのままの状態を理解することで始まる支援や協力が多。家族が一番の援助者であることを理解し、一緒になって支えていく関係の構築は出来ているが、家族によって理解度が異なるため、今後も関係作りが必要である。	○	家族の協力体制や理解度も異なるため、面会や会議の場を通して、家族とホームにより支えていくグループホームの重要性を訴えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの家族との生活が、同居か別居で支援の仕方も異なるが、ホームに入居したのを契機に、家族との面会や外出の機会を支援することで、今まで以上に関係が良くなったケースも多い。	○	ホームに入居したことで介護負担が減少し、今までにない穏やかな関係を保たれている家族が増えたが、家族により温度差があるため、今後もより良い関係作りに努めていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や知人の訪問を受けることはあるが、本人の希望とする自宅訪問や馴染みの場所等への外出の協力を家族に呼びかけているが、十分な支援となっていない。	○	日常のケアの中で、ふと出てくる知人や家族の方への連絡等を行なっていく。外出等は家族の協力が必要となる場合が多いため、協力を呼びかけていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	良きパートナー作りを目指しており、本人の希望や相性を考慮しながら、孤立しないような関係作りが出来ている。席順や外出等での同伴も考慮しており、声を掛け合ったり、お世話される光景も見られている。	○	利用者の状態の変化に合わせて、随時、細やかな対応をしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年始の挨拶状は継続しているが、その他の交流は出来ていない。	○	重要な支援の一つとして、取り組んでいく必要を感じており、早急に検討したい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、重要な情報として、本人・家族より聞き取りを行なっている。本人と家族の意見が異なる時は、本人の思いや希望をを最優先としている。		現状を継続し、必要により改善していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族より生活歴や生活環境等の情報を聞き取り、ケース記録に記載している。入居後に分った情報も随時記載し、情報の共有化に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24Hアセスメントやカンファレンスにより、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態や有する力等の把握は十分に出来ており、日々の援助の中からの気づきも反映できている。		現状を維持し、必要により改善していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望を介護支援専門員が情報提供し、管理者や職員と話し合ってきた課題やケアのあり方、アセスメントで出てきたニーズを踏まえてカンファレンスを行ない、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映している。	○	本人・家族の思いや意向を如何に聞き出すかが鍵であり、介護支援専門員の質の向上と、職員の気づきも積極的に介護計画に反映していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に評価・再アセスメントを行い、必要により介護計画の見直しを行なっている。また、状態が変化した場合は、随時カンファレンスを実施し、介護計画の見直しを行ないながら、家族への説明と同意を得ている。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫を、24H対応で記録し、情報を共有している。。また、介護支援経過記録と実践シートを活用により、介護計画のモニタリングと見直しに活かしている。		現状を維持し、必要により改善していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性が十分に活かされておらず、本人や家族の要望に柔軟な対応が出来ていないとは言えない。	○	事業者が出来ることを分析し・評価することから始め、早急に支援体制の確立を目指したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、警察、消防、教育機関等へは、GHの在り方や利用者の状況は理解してもらい、協力体制は出来ているが、事業所からの啓発と呼びかけは十分とは言えない。	○	本人の意向や必要性の把握を十分に行ない、関係機関との協力しながら支援を行ないたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族には、入居時に説明を行っており、理解は得ている。家族の意向で他事業所の担当者と話し合った経緯はあるが、現在は、他のサービスを利用したい旨の要望はない。		現状を維持し、必要により改善していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定例の会議に出席したり、訪問等を行ない、協力体制は出来ている。入居時に本人の意向についての相談や、入居後の情報交換は出来ているが、その他の項目についての協働は出来ていない。	○	地域包括支援センターとは、入居時の情報交換が主であり、入居後も、権利擁護や総合的かつ長期的なマネジメント等についての話し合いを持ち、相談や助言を受けていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、かかりつけ医を設け、定期的な往診や健康診断等を実施しており、本人、事業所、かかりつけ医のより良い関係により、家族の安心感を得ている。		現状を維持し、必要により改善していく。



誉ヶ丘(A棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	いつでも対応出来るように、本人・家族等やかかりつけ医との話し合いを持ち、本人・家族の要望に対して、不安なく対応できるように職員の理解と意識付けを行なっていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期ケアの経験がない職員が多く、理解度や意識は異なる。いつでも対応出来るように、管理者や看護師を中心に、検討や準備を行ない、チームとしての支援体制を確立していく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	住み替えによるダメージを経験しており、今まで以上に、環境の変化が与えるダメージの理解が出来るように、関係者間で十分な話し合いを行ない、ダメージ防止を図っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応については、「業務マニュアル」にて、意識付けや評価を行っており、日常の業務に活かされている。個人情報の取り扱いについては、玄関に掲示したり、学習する機会を得ており、重要性を認識している。	現状を維持し、必要により改善していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	生活歴や趣味等の援助を基本としているが、日常のケアの中からも本人の思いや希望を表せるように働きかけており、重要な情報を得ることが出来ている。援助として声かけは行なうが、自己決定を前提に支援している。	○ 意思疎通が困難な利用者への働きかけが難しいため、コミュニケーション技術を駆使して、利用者の思いや希望を一つでも多く、表出できるように支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の中には、統一した時間設定もあるが、個別援助が基本であり、本人のペースや希望に沿った援助を行っているが、意思疎通が困難な利用者に対しても、出来る限り希望に沿いながら、生活のリズムを崩さないように支援している。	○ 利用者が1日の日程を決定することは困難であるが、場面場面での意思の確認を行っており、一人ひとりのペースに合わせて支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者に衣服の選択をしてもらい、職員のアドバイスを受けながら、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来ている。季節感のある衣類や好みの衣類に関しては、家族に協力を受けながら支援している理容・美容は行き付けの店を利用されたり、他の方は出張理容を楽しみに利用されている。	現状維持し、必要により改善していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物や調理準備、盛り付けをする方や、下膳、食器洗いをする方がおられ、「できること」を考慮しながら、何か一つに関われるように支援しており、職員と共に活き活きと動かれている。	現状を維持し、必要により改善していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査を実施しながら、献立に反映させているが、利用者からの要望が少なく、特におやつや飲み物に関しては、もう少し選択の余地が欲しい。	○ 利用者からの要望が少ないため、職員の積極的な呼びかけと家族へ好みを聞きながら対応している。

誉ヶ丘(A棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立をモットーに、アセスメントを実施し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして24H体制で対応している。声かけのみの方、夜間帯のみ介助が必要な方と様々であるが、紙パンツ着用者も、定期的な声かけにより、自力で排泄出来るように支援している	○	夜間帯の排泄介助を重点的に行なっており、個々の排泄パターンに合わせて、定期的な声かけと誘導により、自立に向けた支援を行なっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴施行しており、時間や回数は利用者の希望を取り入れているが、意思表示が困難な方もいるため、集中しないように援助している。午前と午後に施行することで、ゆとりを持って入浴できている。夜間入浴は希望者がなく、実施していない。	○	利用者がゆっくりと入浴出来ることを考え、時間帯の幅を設けている。職員の負担等も考慮しながら、安全で快適な入浴を目指している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間帯の個々の状態や睡眠状態を確実に申し送ることで、日中は適切な対応が出来る。夜間不眠の場合は、日中の活動量を増やすため、散歩やレク等への参加を促し、今までの生活習慣により就寝時間が遅い方は、テレビやトランプ等のゲームにてゆったりとした時間の提供を行うことで、安心して休まれている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画の重要なニーズとして、個々の生活歴や特技を活かした、編物や華道、舞踊等の援助により、楽しみ作りや生きがい作りを支援している。また、日課の中でも、個々の「できる力」を活かした、料理や洗濯物たたみ、野菜作り等の役割を持つことで、張り合いや喜びのある意欲的な生活が支援できている。		現状を維持し、必要により改善していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の同意の元、トラブル防止対策として全面管理を行なっている。買物の機会の際には、個々の使い慣れた財布を所持し、支払いは個人単位で実施している。お金が使える喜びと支払い等の金銭感覚の維持に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境に恵まれており、個々の希望により、散歩や家庭菜園の草取り等の援助を行なっている。買物に関しては、散歩感覚で近くのアグリパークへ出かけられている。	○	戸外へ出られる機会は多いが、個々の希望がいつも優先する訳ではないため、利用者の希望をこまめに汲み取ることが出来るように努めている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画として、家族同伴で日帰り旅行を実施している。利用者単位では、温泉や外食、個別ではお寺の法要に行かされている。今年はサーカス観覧に出かけており、大評判であった。		現状を維持し、必要により改善していく。

誉ヶ丘(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者全員に、電話や手紙の援助や声かけを行なっているが、自ら電話を希望されたり、手紙を書かれる方は限られている。出来ない方への支援としては、電話を取り次いだり、代筆するケースもある。	○	利用者が頻回に電話をされるため、家族が拒否されるケースがあり、対応に困ることがあったが、家族とよく話し合いながら、支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の呼びかけは、毎月の近況報告書や随時、電話にてお願いしている。訪問時は、利用者・スタッフ全員で迎えており、気軽に訪問できると喜ばれている。ロビーや居室で過ごされることが多いが、ソファ等を動かし、個別に対応することもある。		現状を維持し、必要により改善していく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアは、ホームの理念であり、契約書でも述べてあることから、全職員は重要なケアとしての理解が来ている。具体的な禁止行為は正しく理解できた上で、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		現状を維持し、必要により改善していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自分の意思で自由に入出入りが出来ることの重要性や施錠することの弊害については、全職員が十分理解できている。各居室には鍵はなく、日中は玄関も施錠していない。徘徊者への対応としては、施錠することなく、見守りや付き添いにて対応出来ている。		現状を維持し、必要により改善していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	基本的には、ロビーで一緒になって過ごされている場面が多く、台所からの様子把握が出来ている。入室されている場合は、ロックと声かけ後の訪室を原則としており、随時、所在と様子を確認している。また、屋外に出られた場合は、必ず職員が付き添っている。夜間帯は、定期巡回にて安否の確認が出来ている。	○	職員が業務に追われている時間帯に、利用者が一人で離棟されているケースがあり、ひやり・はつとが数回報告されていることから、今以上の安全確認が必要である。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・ハサミ・カッター等は、いつでも使用できる体制作りは出来ており、レクや作業療法等の援助では、個人に合った物品の提供に努めている。利用者の中には、物品を居室に持ち帰る場合もあり、行動観察を行ないながら対応している。また、使用後の数量確認により危険防止の対策を講じている。		現状を維持し、必要により改善していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や窒息、誤薬等は、マニュアル化して職員に配布している。個々の対応は介護計画書に沿って実施しており、学習の機会も得ている。火災防止としては、室内での禁煙、台所周辺の整理整頓や可燃物の管理を徹底している。行方不明に関しては、近隣の方への応援体制をお願いしているが、まだ実施例はない。	○	事業所内の取り組みは徹底できているが、行方不明や火災等の協力体制としては、定期的な呼びかけや情報提供を行なっていく。

誉ヶ丘(A棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを職員に配布し、学習機会も得ている。消防署の訪問訓練による、救急法やAED操作も実施済みであるが、実務経験によるレベルの違いが見られる。	○	定期的に訓練や学習の機会を作っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練要項を定めており、年2回の昼・夜を想定した避難訓練を実施している。地域との協力体制としては、地区会長を始め、近隣の方への要請は出来ているが、合同訓練には至っていない。	○	事業所内の訓練は現状を維持していく。、地域の方との協力体制を図りながら、合同訓練を行ないたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状態により起こり得る転倒や事故等のリスクについては、入居時や面会時に説明している。リスクマネジメントやケアについては、家族の要望を取り入れながら実施できており、安心を得られている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック（日に2回）、往診（月2回）、健康診断（年2回）実施している。日々の体調の変化や異常に対しては、申し送りや援助記録に細かく記載しており、情報の共有化と対応が出来ている。		現状を維持し、必要により改善していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱に説明書を貼りつけ、いつでも確認し、理解出来るようにしている。服薬の際は、全介助、一部介助等にて異なるが、いずれも服薬の確認と服薬後の症状の変化の確認行為を確実に実施できている。	○	確実に支援できているが、薬の変更が合った場合は、確実に申し送りを行なっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因と及ぼす影響については、学習の機会を得ており、理解できている。対策として、栄養士の指導の元、献立に反映しながら、飲食物の工夫、特に水分補給に努めている。散歩やラジオ体操、屋外活動により、活動量を増やす働きかけを積極的に行なっている。	○	下剤に頼られる利用者もおられるが、自然排便を目指して、積極的な支援を継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人差があるため、声かけや一部介助にて個別に対応している。自立であっても、磨き残し等があるため、確認を行なっている。義歯の調整や歯垢除去等がある場合は、歯科往診にて対応している。	○	個別のケアは確実にできているが、口腔内の出血や炎症等のチェックを継続していく。

誉ヶ丘(A棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	○	玄関前の碎石等の除去を含め、近々、外回りや玄関周りの改修を行ない、バリアフリー化を計画している。
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	利用者の中には、難聴が高度の方もおられるため、テレビや職員の会話が大きくなる傾向が強く、職員へは、コミュニケーションの方法に留意しながら、穏やかな会話に心がけるように指導している。
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		現状を維持し、必要により改善していく。

誉ヶ丘(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に呼びかけながら、本人にとって居心地の良い環境作りを支援しているが、使い慣れた物品や調度品の持ち込みは少ない。	○	持ちこみの少ない利用者へは、その人らしい環境作りが及ぼす効果を説明しながら、積極的に家族への協力を依頼していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・トイレ・浴室等は、換気扇や自然換気によりこまめに実施している。温度調節に関しては、個人差が大きいため、利用者の希望や健康状態を考慮し、職員中心にならないようにこまめな対応を行なっている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	在宅の家に近い環境作りを行なっており、トイレ・浴室以外は手すりの設置は行なっていない。利用者一人ひとりの状態を把握し、残存機能を活かした、安全かつ出来るだけ自立に向けた生活の支援を行っている。	○	利用者の高齢化や身体機能の低下等により、今後改善していく方向であるが、今は、現状を継続していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症レベルや見当識の低下により、個人差が大きいが、カンファレンスにより、問題点を検討し、ケアの統一を図りながら、利用者の混乱や失敗を防ぎ、自立を目指している。	○	日常のケアでの気づきや、申し送り等で出たことを情報とし、全員で検討し、日々のケアに取り入れている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	家庭菜園と花壇の管理は、利用者と職員が一緒になって草取りや水撒き等を行なっている。ベランダや中庭で、洗濯物を干される利用者や、外のベンチで過ごされたりと、思いおもいに屋外に出られる機会が多い。	○	今年度中に、外回りや中庭の改修を予定しており、今以上に利用者の活動範囲が拡大できると思われる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



誉ヶ丘

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近くには、桜の名所の誉ヶ丘公園や県立少年の家等があり、自然豊かな環境下にあります。また、アグリパークや物産館には、新鮮な野菜や数多くの食材等が豊富に取り揃えてあり、利用者の買物の場や地域住民との憩いの場となっています。その恵まれた環境の中で、経験豊かなスタッフの介護の元、地域に根ざしたホームをテーマに、理念「利用者の尊厳と個を大切に、寄り添うケアの実践を通して、地域と共に支え合うホームを目指す」の実践と実現に向けて、利用者・家族・職員が共に助け合いながら、日々取り組んでいます。

職員は、「一日も永く入居して欲しい、楽しく暮らして欲しい」との思いが強く、介護理念「笑顔・楽しさ・無限大」の実現に向けて、試行錯誤を繰り返しながら、利用者の思いに届くよう支援しています。

ホームの外観や優しい雰囲気の内室及び利用者と職員の笑顔が示すように、暖かく家庭的な生活を維持し、利用者・家族・職員が一緒になって、喜んだり泣いたり、時には怒ったりしながらも、最後は手を取り合って笑い合えるホームを目指しています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 誉ヶ丘
(ユニット名)	B棟
所在地 (県・市町村名)	宇城市豊野町山崎1728-1
記入者名 (管理者)	野村 修
記入日	平成19年6月10日

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定の項目に、地域との関わり合いを掲げており、地域密着型サービスと位置付けられたのを機会に、事業所独自の理念を掲げている。	○ 理念は生き物であるため、理念に基づいた具体的な項目を掲げ、利用者や地域の様々な変化に対応できる事業所の体制作りを確立したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念を書き込んだ名札を着用しており、いつでも確認できる体制作りが出来ている。事務室内にもホーム理念と介護理念を掲示しており、日常的な意識付けと実践に向けて、日々取り組んでいる。	現状を維持し、必要により改善していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは、入居時に重要事項説明と併せて、運営規定やホーム理念及び介護理念の説明を行なっている。運営推進会議のメンバーには既に説明を行なっているが、地域の方への浸透はまだ不十分である。	○ 運営推進会議のメンバーを介して、老人会や民生委員の方への啓発を行なっていきたい。現在、GHのホームページを作成中であり、PRの効果を期待している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの誉ヶ丘公園やアグリパークへ行った際は、隣近所の人と気軽に挨拶をしたり、声をかけてもらっている。建物が敷地の裏手に立地しており、近隣の方が立ち寄るには不便である。	○ 誉ヶ丘公園やアグリパークの立地を活かし、散歩や買物の機会を活かして、利用者・職員が積極的に関わっていくことが必要である。近隣の方が隣棟に立ち寄られた時は、訪問して頂くように声をかけている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に根ざしたホームを目指しており、商工会や婦人部の慰問は受けているが、事業所からの地域活動は少なく、地元の人々との交流の機会も少ない。	○ 商工会や婦人部、小学生の訪問等の際は、利用者も生き活きとされており、地域交流の重要性は感じている。6月には、利用者と職員が、早朝より地域の環境美化活動に参加し、花植えをされている。

誉ヶ丘(B棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>職員が培ってきた福祉に関する経験や知識を、地域の高齢者等と話し合う機会を得ることで、少しでも暮らしに役立てたいとの思いは強いが、実行に至っていない。</p>	○	<p>老人会や地域住民の集まり等で、福祉に関する話しや転倒防止等の話しができれば良いと考えている。老人会長や民生委員を通して、呼びかけていく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>学習会等にて、自己評価及び外部評価の意義を説明し、理解を得ている。また、評価を分析し、出来る項目から全体で取り組んでおり、改善できた項目は業務に、有意義に活かされている。</p>		<p>現状を維持し、必要により改善していく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービスの実施状況や外部評価への取り組み状況及び入所状況や行事報告等を行ないながら、メンバーからの意見や要望及び評価を頂き、サービス向上に活かしている。また、経過報告も行なっている。</p>	○	<p>運営推進会議のメンバーから、意見や要望が、まだ出にくい状況であり、テーマに沿った意見集約に努めていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の連絡協議会や研修等での交流の機会があり、地元の在宅介護支援センターや居宅介護支援事業者との情報交換も出来ているが、行政と一体となったサービスの質の向上につながるような働きかけが弱い。</p>	○	<p>ホーム側から積極的に訪問し、介護保険や入所相談等の情報交換が気軽に出るような、関わり合いを作っていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、学習の機会を得ており、制度の理解は出来ているが、職員は、入居者に対象者がいないため、制度について学習する機会がまだ得られていない。</p>	○	<p>利用者がいつでも制度の活用ができるように、制度について学習の機会を設けることから始めたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法については、学習の機会はないが、職員は重要性と必要性は理解できており、管理者は自宅や事業所内で虐待がないように注意を払い、虐待防止に努めている。現在まで、報告及び事例はない。</p>		<p>現状を維持し、必要により改善していく。</p>

誉ヶ丘(B棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書にて、十分な説明を行ない理解を得ている。契約時には、再度説明を行ない、契約の締結と解約の場合の疑問に応え、不安解消を図っている。現在まで、トラブルは起きていない。</p>	<p>現状を維持し、必要により改善していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特別に時間は設けていないが、日常のケアの中で利用者の意見や訴えを聞く機会を得ており、カルテに記入し、職員が代弁して申し送りやカンファレンスで対応策を検討し、運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行なっていきたい。意思疎通が困難な利用者からの意見集約に重点的に取り組んでいきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>近況報告書を毎月家族へ送付し、利用者の暮らし振りや健康状態、職員の移動等について、個々に合せた報告をしている。金銭管理については、毎月、出納帳の確認と領収書の配布を行なっている。</p>	<p>現状を維持し、必要により改善していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「御意見箱」を玄関に設置しており、面会時や見学時に、意見、不満、苦情、要望を受け付けている。また、口頭や運営推進会議の場でも気軽に意見の受け入れを行っており、寄せられた苦情等に対しては、担当者が速やかに対応策を検討し、運営に反映している。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行なっていきたい。面会や会議の場でも呼びかけていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、学習会や主任者会議にて、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、その場で対応策を検討し、運営に反映させている。また、意見が出にくい職員もいるが、年度末に個人面談を実施することで対応している。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満、苦情等を気軽に言えるような人間関係や雰囲気作り及び迅速な対応を行なっていくが、意見を聞く機会を運営者や管理者が定期的に設けて行く。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>看護師、介護福祉士、栄養士、ヘルパー等の人材を確保しており、利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できる体制作りが出来ている。そのために、運営者と管理者は常に話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>現状を維持し、必要により改善していく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2ユニット体制になってからの職員の移動は行っていない。離職者もなく、利用者へのダメージは防止できている。</p>	<p>現状を維持し、必要により改善していく。</p>

誉ヶ丘(B棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修としては、実践者研修等の中込みをしているが、参加の機会に恵まれていない。GH協議会の勉強会は年間計画として参加できている。職場内教育として、毎月、テーマを決め、段階に応じた教育の実施が出来ている。OJTとして、日常のケアや申し送りの場面での確かな助言や指導を看護師や介護福祉士が実践している	○ 職場内の学習機会は充実してきているが、外部研修の機会が少なく、職員のレベルアップのためには、計画的な研修やOJTが必要である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、GH連絡協議会のメンバーとして、管理者や職員が勉強会や相互交流の活動に参加出来るように支援しているが、サービスの質の向上には至っていない。	○ 交流の機会も少なく、限られた職員の参加が主なため、全員が活動に参加できるような、年間計画が必要である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員の希望を取り入れた、負担のない勤務に努めているが、ゆっくりと休める、休憩室の整備が遅れている。	○ 職員のストレスを吸い上げる機会を作ることが必要であり、気軽に話し合え、気軽に意見が言える人間関係を保つことに、日々努めている。休憩室については、今年度中に整備する計画である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、個々の努力や実績を活かした、役割や担当制を実施することで、各自の向上心を持って働けるように努めている。また、個人目標を掲示し、目標を持って意欲的に働けるように支援している。	現状を維持し、必要により改善していく。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までは、担当者が数回面談したり、自宅訪問することで落ち着いた状態で、本人の困っていることや不安なこと、求めていること等を本人自身から良く聴き、受け止める努力をしている。	現状を維持し、必要により改善していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までは、担当者が数回面談したり、自宅訪問することで落ち着いた状態で、家族等が困っていることや不安なこと、求めていること等を家族等から良く聴き、受け止める努力をしている。	現状を維持し、必要により改善していく。

誉ヶ丘(B棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には、担当の介護支援専門員に同行してもらい、一緒に検討している。種々のサービスの説明をする中で、本人の状態に合ったサービス提供と、本人・家族の要望が一致するように努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に数回、最低でも2回はホームを見学してもらい、本人の意見や見学の様子を考慮した上で、サービスの開始をしている。1日体験をされた利用者もおられる。	○	家族主体での決め事が多いので、本人の印象や相性等を最優先に考慮しながら、納得した上でサービスの利用開始を行なっていく
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活する時間が永くなることで、利用者と職員の関係から、家族の関係に変わってきている。頼み事も自然であり、洗濯や掃除、料理に関しては、先輩であり、学ぶことが多い。淋しい時は寄り添い、時には口論をしながら、喜怒哀楽を共にしている。	○	入居期間が短い利用者もおられるため、1日も早く共に過ごし共に支え合う関係作りを行なっていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は、利用者が元気に暮らしてくれることを願っており、不安を抱いている家族も多いため、利用者の状態を理解しながら、家族と職員ができることを話し合っている。	○	利用者の状態が変化した時の家族の不安を取り除くことが必要であり、今後の対応を含めて柔軟な対応をしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今まで独居されていたり、家族と縁遠かった利用者も、入居したことにより、家族の協力もあり、面会や外出の機会を持たれ、本人と家族の関係が良くなったケースもある。	○	家族は入居に関しては、一様に安心されているが、預けっぱなしの傾向にならないように、利用者の思いを家族に伝えながら、より良い関係作りを支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族中心の支援になっている場合が多いので、馴染みの方との関係作りが弱いと思われる。馴染みの場所への外出等は、家族への協力も呼びかけているが、十分とは言えない。	○	馴染みの人や場所は、本人の話しを元に、家族への確認と協力が必要であり、今まで以上に、本人・家族との情報交換や支援を行なっていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	まだ、利用者が少ないため、一人ひとりの関わり合いも多く、お互いにお世話される場面も見られており、利用者間関係作りは良好である。	○	今後、利用者数も増えるが、現状が維持出来るように、利用者の変化に合わせながら、利用者同士の関係作りを支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年始の挨拶状は継続しているが、その他の交流は出来ていない。	○	重要な支援の一つとして、取り組んでいく必要を感じており、早急に検討したい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、重要な情報として、本人・家族より聞き取りを行ったり、面会時に話しがあれば、情報として収集している。利用者・家族の意見を検討しながらも、最終的には本人の思いや希望を優先している。	○	利用者の思いや希望を優先する体制は変わらないが、本人の思いや希望を一つでも多く聞き出せるような、積極的な支援を行っていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族より生活歴や生活環境等の情報を聞き取り、ケース記録に記載している。入居後に分った本人や家族からの情報も、随時記載したり申し送りにて情報の共有化に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人・家族からの情報と食い違うパターンが多く、ホームの生活パターンの把握のため、アセスメントや日常のケアでの気づき等分析し、総合的に把握している。		現状を維持し、必要により改善していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望を介護支援専門員が情報提供し、管理者や職員と話し合ってきた課題やケアのあり方、アセスメントで出てきたニーズを踏まえてカンファレンスを行ない、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映している。	○	本人・家族の思いや意向を如何に聞き出すかが鍵であり、介護支援専門員の質の向上と、職員の気づきも積極的に介護計画に反映していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に評価・再アセスメントを行い、必要により介護計画の見直しを行なっている。また、状態が変化した場合は、随時カンファレンスを実施し、介護計画の見直しを行ないながら、家族への説明と同意を得ている。		現状を維持し、必要により改善していく。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫を、24H対応で記録し、情報を共有している。また、介護支援経過記録と実践シートの活用により、介護計画のモニタリングと見直しに活かしている。	○	個別記録の書き方は、職場学習にて学んでいるが、職員の個人差が大きく、時々見直ししながら、レベルアップを図っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性が十分に活かされておらず、本人や家族の要望に柔軟な対応が出来ていない。	○	事業者が出来ることを分析し・評価することから始め、早急に支援体制の確立を目指したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、警察、消防、教育機関等へは、GHの在り方や利用者の状況は理解してもらい、協力体制は出来ているが、事業所からの啓発と呼びかけは十分とは言えない。	○	本人の意向や必要性の把握を十分に行ない、関係機関との協力しながら支援を行ないたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族への説明は、入居時に行なっており、理解は頂いているが、現在までに相談を受けたケースはない。		現状を維持し、必要により改善していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定例の会議に出席したり、訪問等を行ない、協力体制は出来ている。入居時に本人の意向についての相談や、入居後の情報交換は出来ているが、その他の項目についての協働は出来ていない。	○	地域包括支援センターとは、入居時の情報交換が主であり、入居後も、権利擁護や総合的かつ長期的なマネジメント等についての話し合いを持ち、相談や助言を受けていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、かかりつけ医を設け、定期的な往診や健康診断等を実施しており、本人、事業所、かかりつけ医のより良い関係により、家族の安心感を得ている。		現状を維持し、必要により改善していく。

誉ヶ丘(B棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	いつでも対応出来るように、本人・家族等やかかりつけ医との話し合いを持ち、本人・家族の要望に対して、不安なく対応できるように職員の理解と意識付けを行っていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期ケアの経験がない職員が多く、理解度や意識は異なる。いつでも対応出来るように、管理者や看護師を中心に、検討や準備を行ない、チームとしての支援体制を確立していく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	住み替えによるダメージを経験しており、今まで以上に、環境の変化が与えるダメージの理解が出来るように、関係者間で十分な話し合いを行ない、ダメージ防止を図っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応については、「業務マニュアル」にて、意識付けや評価を行ないながら、業務に活かしている。個人情報の取り扱いについては、玄関に掲示したり、学習する機会を得ているが、職員で温度差がある。	○ 言葉かけや対応は基本であり、管理者の指導と職員の日々の振り返りが重要と考える。個人情報と合わせて、定期的な学習と評価を行なっていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を優先しながらの援助を基本としているが、思いが出にくい方へは、生活歴や趣味等の情報を有効に活用し、その中で自己決定の支援を行っている。	○ 職員の働きかけは出来ているが、思うように本人の思いや希望が出てきていない。利用者により意思疎通や表現力も異なるため、個々の能力に合わせた細やかな対応を行っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の援助が中心であるが、思うように本人の希望が出にくいいため、選択肢を提供しながら、少しずつ希望に沿うような暮らしを支援している。	○ 何もしないことも選択肢の一つであり、利用者の意思の確認を十分に行なっていく。日課には、決まった時間もあるが、個々のペースを守りながら、希望に沿った時間を提供していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは、利用者の希望を取り入れながら、自立に向けた支援をしており、職員が声かけや一部介助により、季節感のある身だしなみが出来ている。理容・美容は、行き付けの店を利用される利用者もおられるが、出張理容を多く利用されている。	○ 家族へは、季節に応じた衣替えを協力してもらいながら、新しい衣類だけではなく、着慣れしている衣類の提供を呼びかけていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物や調理、下膳や食器洗い等と食事への入所者の関わりは多いが、利用者の生活歴や能力等を考慮しながら、個々の状態に合った作業の提供を行っており、自分から率先して活動されるようになっていく。	現状を維持し、必要により改善していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居の際の聞き取りにて情報を得たり、嗜好調査を実施しながら、個々の嗜好に合った支援を行なっているが、本人からの希望は少なく、食事に対する不満も余り聞かれない。	○ 利用者からの要望が少ないため、職員の積極的な呼びかけと選択肢の幅を広げることも一つと考える。

誉ヶ丘(B棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立と紙パンツはずしを目標にアセスメントを実施し、一人ひとりの排泄パターンや習慣に合った支援を行なっている。紙パンツや尿パットの使用量が少なくなったり、夜間帯のみ着用されるようになったりと改善が見られている。	○	昼間と夜間帯では対応も異なるが、夜間帯のケアを中心に、定期的な声かけと歩行介助等を行ないながら、安全で気持ち良く排泄出来るように支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴施行しており、時間や回数等は利用者の希望を取り入れている。拒否が強い利用者に対しては、時間をおいて声かけ等を行ないながら、本人のタイミングに合わせている。現在は、入居者が少ないため、ゆっくりと入浴できている。	○	今後、入居者が増える予定であるが、現状を継続しながら、安全で快適な入浴施行を行なっていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣は、本人・家族より情報は得ており、安眠の支援は出来ている。夜間不眠の症状が出た場合は、確実な申し送りと対応により、日中の活動量を増やしたり、夕食後は、ゆっくりとした団欒の時間を過ごせるように支援している。	○	現状を維持し、必要により改善していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	理念の実現につながる重要な支援であり、介護計画にも反映している。利用者の生活歴や特技を活かすことで、楽しみや生きがいを持てている。編物や洋裁、日本舞踊や家庭料理等と様々であるが、職員から活動の場を設けることで、本人の力が発揮出来るように支援している。	○	認知症や身体機能の低下により、忘れてきたり出来なくなってきたりしているが、昔取ったきねずかを再び思い出せるような働きかけを行なっていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の同意の元、トラブル防止対策として全面管理を行なっている。買物の機会の際には、個々の使い慣れた財布を所持し、支払いは個人単位で実施している。お金が使える喜びと支払い等の金銭感覚の維持に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、戸外へ出られることを好まれており、公園までの散歩を中心に、買物に行ったり、庭の草取りをされており、利用者の希望を取り入れた支援を行なっている。	○	全員で出かけることが多く、個々の希望が叶わないケースも考えられるため、職員の声かけや希望を聞き出す努力が必要である。自宅への外出等は、家族への協力を積極的に行なっていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回、家族同伴で日帰り旅行を実施している。アンケートを取り、利用者の希望を叶えられるように、計画的に実行している。温泉、外食、サーカス見学を実施しており、順調に活動できている。		現状を維持し、必要により改善していく。

誉ヶ丘(B棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者全員に、電話や手紙の援助や声かけを行なっているが、自ら電話を希望されたり、手紙を書かれる方は限られている。出来ない方への支援としては、電話を取り次いだり、代筆するケースもある。	○	利用者が頻回に電話をされるため、家族が拒否されるケースがあり、対応に困ることがあったが、家族とよく話し合いながら、支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の呼びかけは、毎月の近況報告書や随時、電話にてお願いしている。訪問時は、利用者・スタッフ全員で迎えており、気軽に訪問できると喜ばれている。ロビーや居室で過ごされることが多いが、ソファ等を動かし、個別に対応することもある。		現状を維持し、必要により改善していく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアは、ホームの理念であり、契約書でも述べてあることから、全職員は重要なケアとしての理解が来ている。具体的な禁止行為は正しく理解できた上で、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		現状を維持し、必要により改善していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自分の意思で自由に入出りが出来ることの重要性や施錠することの弊害については、全職員が十分理解できている。各居室には鍵はなく、日中は玄関も施錠していない。徘徊者への対応としては、施錠することなく、見守りや付き添いにて対応出来ている。		現状を維持し、必要により改善していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室の際の声かけとノックは原則であり、プライバシーへの配慮は出来ている。利用者は、日中はロビーでの生活が主であり、様子確認は出来やすいが、夜間は、定期的な巡回にて対応している。現在、徘徊される利用者があり、重点的に安否の確認を行なっている。	○	徘徊中のひやり・はつが発生しており、重大事故につながらないように、対応を検討し実践している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	レクや作業療法にて、ハサミやカッター等を使用する機会が多いが、利用者に合わせて使用を援助しており、問題は発生していない。利用者からの要求があれば、職員の見守りにて使用されている。		現状を維持し、必要により改善していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や窒息、誤薬等は、マニュアル化して職員に配布している。個々の対応は介護計画書に沿って実施しており、学習の機会も得ている。火災防止としては、室内での禁煙、台所周辺の整理整頓や可燃物の管理を徹底している。行方不明に関しては、近隣の方への応援体制をお願いしているが、まだ実施例はない。	○	事業所内の取り組みは徹底できているが、行方不明や火災等の協力体制としては、定期的な呼びかけや情報提供を行なっていく。

誉ヶ丘(B棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを職員に配布し、学習機会も得ている。消防署の訪問訓練による、救急法やAED操作も実施済みであるが、実務経験によるレベルの違いが見られる。	○	定期的に訓練や学習の機会を作っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練要項を定めており、年2回の昼・夜を想定した避難訓練を実施している。地域との協力体制としては、地区会長を始め、近隣の方への要請は出来ているが、合同訓練には至っていない。	○	事業所内の訓練は現状を維持していく。、地域の方との協力体制を図りながら、合同訓練を行ないたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状態により起こり得る転倒や事故等のリスクについては、入居時や面会時に説明している。リスクマネジメントやケアについては、家族の要望を取り入れながら実施できており、安心を得られている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック(日に2回)、往診(月2回)、健康診断(年2回)実施している。日々の体調の変化や異常に対しては、申し送りや援助記録に細かく記載しており、情報の共有化と対応が出来ている。		現状を維持し、必要により改善していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱に説明書を貼りつけ、いつでも確認し、理解出来るようにしている。服薬の際は、全介助、一部介助等にて異なるが、いずれも服薬の確認と服薬後の症状の変化の確認行為を確実に実施できている。	○	確実に支援できているが、薬の変更が合った場合は、確実に申し送りを行なっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因と及ぼす影響については、理解できており、栄養士と看護師の指導の元、水分補給に力を入れているが、個人差もあり、思うような援助が出来ていない。散歩や屋外活動の働きかけは出来ている。	○	緑茶を主体に援助しているが、補給の少ない方には、嗜好により、牛乳やコーヒー、紅茶等の選択肢を用意し、個々の要求に応じている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけと一部介助を行なっている。自菌のある方は、特に磨き残しがないように注意している。歯科往診も受けれる体制作りが出来ており、個々の状態に合わせて、活用できている。	○	自分から動かれる利用者が少ないため、積極的な声かけを行ないながら、習慣となるように支援していく。

誉ヶ丘(B棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と看護師の指導の元、食事摂取量を記入し、健康管理に活用している。糖尿病や便秘症に合わせた食事形態を実施したり、刻み食や粥食も取り入れている。	○	食事摂取や水分確保の少ない利用者があり、状態を把握しながら、看護師や栄養士に適切に報告している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症防止マニュアルを作成し、職員に配布している。職場内にて学習する機会も設けており、職員のレベルアップと感染防止に向けた取り組みを実践している。		現状を維持し、必要により改善していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の清掃・管理、まな板・ふきん・包丁の殺菌を義務付けており、確実に施行できている。毎日、食材のチェックを行っており、新鮮で安全な使用が出来ている。利用者・職員共に、調理前の手洗いと消毒及びエプロン・三角巾の着用を実施し、衛生管理に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物が敷地の裏手にあり、花をプランターに飾ってはいるが、地味な印象である。	○	中庭と外周の改修が予定されており、今後の展開を利用しながら、出入りしやすい雰囲気作りを行っていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は採光も良く、明るい雰囲気作りがされている。環境にも恵まれており、不快な音は全んど聞こえてこない。玄関には季節の花や利用者の作品が飾っており、豪華な装飾品はないが、家庭的な雰囲気作り心がけている。	○	台所のテーブルには職員が季節の花を飾っており、お華の先生をされていた利用者にも好評を得ており、今後も上手に季節感を取り入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を変えたり、和室を利用しながら思い思いに過ごされている。中には、玄関前のベンチを利用される方もおられる。	○	共用空間は限られているが、ソファの配置や椅子の活用により、活用エリアは拡大すると思われるため、検討しながら対応していく。

誉ヶ丘(B棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へは、入居の際に使い慣れた物を持ち込んでもらうようお願いしているが、意外に活用されている方は少ない。	○	家具や調度品は無理にしても、利用者の生活や趣味が伝わってくるような物品をお願いしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・トイレ・浴室等は、換気扇や自然換気によりこまめに実施している。温度調節に関しては、個人差が大きいため、利用者の希望や健康状態を考慮し、職員中心にならないようにこまめな対応を行なっている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	在宅の家に近い環境作りを行なっており、トイレ・浴室以外は手すりの設置は行なっていない。利用者一人ひとりの状態を把握し、残存機能を活かした、安全かつ出来るだけ自立に向けた生活の支援を行っている。	○	利用者の高齢化や身体機能の低下等により、今後改善していく方向であるが、今は、現状を継続していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症レベルや見当識の低下により、個人差が大きいが、カンファレンスにより、問題点を検討し、ケアの統一を図りながら、利用者の混乱や失敗を防ぎ、自立を目指している。	○	日常のケアでの気づきや、申し送り等で出たことを情報とし、全員で検討し、日々のケアに取り入れている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	家庭菜園は隣棟の前にあり、いつも眺められないのが残念であるが、散歩の際に眺めたり、一緒に野菜を植えたり草取りを行なっている。利用者の居室の窓際に花壇を作り、職員と共に管理しながら楽しまれている。	○	今年度中に、外回りや中庭の改修を予定しており、今以上に利用者の活動範囲が拡大できると思われる。



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

誉ヶ丘

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近くには、桜の名所の誉ヶ丘公園や県立少年の家等があり、自然豊かな環境下にあります。また、アグリパークや物産館には、新鮮な野菜や数多くの食材等が豊富に取り揃えてあり、利用者の買物の場や地域住民との憩いの場となっています。その恵まれた環境の中で、経験豊かなスタッフの介護の元、地域に根ざしたホームをテーマに、理念「利用者の尊厳と個を大切に、寄り添うケアの実践を通して、地域と共に支え合うホームを目指す」の実践と実現に向けて、利用者・家族・職員が共に助け合いながら、日々取り組んでいます。

職員は、「一日も永く入居して欲しい、楽しく暮らして欲しい」との思いが強く、介護理念「笑顔・楽しさ・無限大」の実現に向けて、試行錯誤を繰り返しながら、利用者の思いに届くよう支援しています。

ホームの外観や優しい雰囲気の内室及び利用者と職員の笑顔が示すように、暖かく家庭的な生活を維持し、利用者・家族・職員が一緒になって、喜んだり泣いたり、時には怒ったりしながらも、最後は手を取り合って笑い合えるホームを目指しています。